

第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分会
第 7 回議事録（概要版）

会場：日本学術会議 会議室 5－B

日時：5 月 17 日（金）16：00～18：00

出席者：片田委員長、小松副委員長、寶金委員、井上、正木、南、山本、田高、多久和、太田、西村（議事録）

Web：吉沢、綿貫、浅野（敬称略、順不同）

資料

- ① 第 24 期日本学術会議 看護学分会 第 6 回議事録（概要版）
- ② 第 24 期日本学術会議 看護学分会 第 6 回議事録（詳細版）
- ③ 「日本の展望 2020（仮称）」の総論試案に対するご意見募集 回答フォーマット
- ④ 「日本の展望 2020（仮称）」の総論試案
- ⑤ 2020 年マスタープラン
- ⑥ 図 ケア・イノベーションの研究拠点とアウトカム
- ⑦ 高度実践看護班資料
- ⑧ 地元創成看護班資料
- ⑨ 分野別研究評価の実態評価

【議題】

（1）委員会報告

小松副委員長より、総会の際に健康・生活科学委員会が一度開催されたこと、委員会では、現在の活動情報の報告があったことが報告された。新たな動きとして、スポーツ科学分会が複数の委員会との共催によって、来年度のオリンピック・パラリンピックに関するシンポジウムを予定していることが報告された。

片田委員長より、オリンピックに関係した内容として、パブリックヘルス分会が感染症に対する検討をしていることが報告された。

（2）本年度の予定

片田委員長より、現在、24 期の 1 年半が終わったこと、来年の 9 月までが今期であり、活動計画からすると、会議を 4 月～6 月、9 月～11 月に行う予定だが、予算が難しくなる可能性があることが報告された。

（3）意見聴取について

「日本の展望 2020（仮称）」の総論試案（資料③④）について、委員に意見が求められて

おり、本分科会の委員から意見収集することとなった。

分野別研究評価の実態評価について、研究評価指針を検討するため、各分野の実態を把握する調査が来ている。看護学の実態について案（資料⑨）を作成した。

以上2点に対する意見を、メールで集約することとなった。

（４）「マスタープラン」（2020）の提出について

小松副委員長より、健康・生活科学委員会から横断的なテーマにてマスタープランを出すことが計画され、2018年3月28日に資料⑤⑥のプランを提出したことが報告された。プランの方向性として、社会において必要性の高い内容を検討し、研究計画課題を「Society5.0の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」とした。現在、審査が進んでいることが報告された。

（５）各班からの活動報告

1) 高度実践看護班

井上委員より、資料⑦をもとに、日本型高度実践看護師（ANP）を育成することを目指した提言作成を進めていることが報告された。現在、複数の団体が、ANPの制度設計に関する議論を始めている。この現状を受け、急ぎ、本提言を行う必要があり、看護系大学協議会との共同執筆も考えている。これまで、2度にわたってANPに関する提言を出しており、既に、ANPの必要性は言い尽くしていると考え。そのため、日本型ANPを作る方針を提案した。

本提案については、次の意見が述べられた。

- ・日本学術会議の立場からANPを推進する提言を出す必然性を明らかにしておく必要がある。
- ・日本学術会議の提言として、教育の理念と骨格を示すことが求められる。
- ・ANPにおけるShared responsibilityについて、特に医師の役割との関係で、どのような理念で、どの領域で何をシェアするのかを具体的に示す必要がある。
- ・30年、50年後を想定して、看護職はどのように働くべきかというビジョンを描いた上で、いかなる専門家が必要かを検討する。それによって、ANPの役割も明確になる。
- ・権限移譲において、看護はいかなる役割を担っていくのか、それに必要な教育とは何であるのかを明確にする。
- ・地域社会で暮らしている人々の力を支えるケアサイエンスとの関係も議論された。

2) 地元創成看護班

南委員から、資料⑧をもとに進捗が報告された。

- ・8月に地元での活動に関するシンポジウムを行う予定である。4月末までに地域の健康課

題を扱った取り組みの実践例を集め、シンポジストを検討する予定である。シンポジストは、受益者や NPO、福祉領域の人などを考えている。

- ・来年度の 3 月までに提言を作成する予定である。提言では、「地元」を英語でどういふかを定め、地元の理論武装をしていかないといけないと考えている。
- ・健康に地域格差が認められることから、各地元の課題に取り組まなければならないが、看護界ではまだ取り組めていない。地元の取り組みから世界に向けて、グローバルな発信ができることを目指したい。
- ・実際の活動が知りたいため、知っている地元の活動がある場合は、知らせて欲しい。

以上の進捗報告を受けて、次の意見があった。

- ・「日本の展望 2020」の「地域連携プラットフォーム」の発展型として、国が推進している方針とも重なるのではないか。
- ・小中高区と大学が連携して、学部生が主導をして健康課題に取り組んでいく活動（高知県の取り組みなど）は地元創成看護に繋がる。
- ・シンポジウムまでの手続きとして、企画は看護学分科会に出し、その後、幹事会へ提出する。本学術会議の講堂を使用する場合は、日本学術会議事務局に連絡をして予約することとなった。

（６）次回の分科会について

9 月の開催を予定している。会議方法は、今後調整をする。

以上